

令和8年度 第2回 三ヶ日中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年 7月8日(水) 14時30分から16時30分
- 2 開催場所 三ヶ日中学校 会議室
- 3 出席委員 高橋一浩 山本智之 渥美浩明 袴田昌弘 奥川 良 木本貴子 鈴木あゆみ
伊藤美季
- 4 欠席委員 長坂恭輔
- 5 オブザーバー 堀 好志(三ヶ日支所コミュニティ担当)
- 6 学校支援コーディネーター 寺田祐真
- 7 学校 金子直由(校長) 宮津宗之(教頭) 坂田真之介(教務主任) 細川みどり(CSディレクター)
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 細川みどり
- 10 議長の選出
司会から、議長の選出について意見を求めたところ、渥美委員から高橋委員を議長に推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。
- 11 協議事項
(1)休日部活動の地域展開における進捗状況
(2)学校の諸課題について(業務量管理・健康確保措置実施計画)
(3)「地域を好きになる中学生」育成のための具体案④（熟議する時間が無くなったため、次回に持ち越し）
- 12 会議記録
司会の宮津教頭から、委員総数9名のうち8名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1)休日部活動の地域展開における進捗状況

- ・少子化と教員数減少により現状の部活動数維持が困難であること、今年9月以降、休日の部活動には原則教員が関わらず地域クラブ(はまクル等)へ移行していくこと、さらに、来年度はソフトボール、男子ソフトテニス、女子バレー、剣道(女子)の4部を募集停止とすることが示された。先々の見通しとして、令和16年には1年生が現在の約半分(49人)になるであろうことも共有された。
- ・様々な活動に参加できる利点はあるが、はまクル認定クラブの活動拠点は三ヶ日の生徒には遠いものが多いという課題を指摘し、地域での受け皿作りの必要性が伝えられた。
- ・少子化や部活動数の減少、活動時間の減少の現状を受け、「部活動＝学校生活」だった自身の経験から、生徒が何を楽しみに学校に来るのだろうか？(高橋委員)
- ・部活動に入っていない子供を持つ親の視点から、放課後に子供が「ダラダラ」してしまうのではないかと不安を述べ、また、遠方への送迎負担についても懸念を示した。(伊藤委員)
- ・募集停止となる部を男女統合して継続できないか？(鈴木委員)
→顧問2名体制のガイドラインや大会日程の重複から、現状の教員数では困難である。(校長)
- ・部活に入らない子がダラダラしてしまうという話がありましたが、学校としては何か対策は考えられているか？(渥美委員)
→平日も含め、部活動に参加していない子については、放課後の過ごし方を含め、親子でじっくりと話し合ってもらいたいと考える。(校長)
- ・地域のサロンとか自治会のサロンにうまく中学生を巻き込んだものにできれば良い。(木本委員)
- ・「学校に任せれば安心」という従来の価値観を捨て、余暇をどう過ごさせるかは「自己責任」として親が子供と対話すべき段階にある。かたや、地域も人材不足であり簡単には中学生の受け皿を作れないという現状がある。(山本委員)

<地域をよく知る寺田オブザーバーに議長から意見を求めた際に…>

- ・(部活動の地域展開は、)意欲のある子供には選択肢が広がる一方、受け身な子供が心配である。学校の部活動にこだわらず、祭りのような地域の行事を拡充し、中学生を取り込んでいく(出番を創出していく)ことで社会との接点を作っていけるのではないか。(寺田オブザーバー)
- ・中学生、高校生がスタッフとして参加してくれると本当に助かると思うし、人間としての力がついていくと思う。(高橋委員)
- ・(これまで総合的な学習の時間のひとつのプロジェクトとして行ってきた活動である)「三ヶ日牛バーガープロジェクト」を地域の協力を得ながら立ち上げ、全7回(学ぶ・作る・販売する・振り返る等)で活動する。地域の活動として参加の募集をする。部活動に変わるものではないかもしれないが、一つのアクションとして、今後につなげていけたらと考える。(鈴木委員)
- ・他校の総合的な学習の時間におけるアドバイスの経験を交え、大人が過去の習慣で「枠」を作らず、まずそれを取り払う努力が必要である。部活動という形ではなくても地域の大人が「子供たちのことを諦めていない」という姿勢を見せることが、子供たちに何かを感じさせるためには大切である。(奥川委員)

(2)学校の諸課題について(業務量管理・健康確保措置実施計画)

- ・本来の業務以外のことが多く、教員が疲弊しているのが現実である。本来の業務である授業準備に支障が出てしまうと本末転倒である。また、教員の多岐にわたる業務(量)が起因し、教員採用試験の倍率が1倍を切る危機的状況にある市町があることが共有された。
- ・教員以外で日常の業務を担うスタッフの配置があると聞いたが、三ヶ日中ではどうか。(渥美委員)
→校務アシスタントがおり、積極的に活動してくれてはいるが、時間的な制約もあり、助かる部分は多いが、十分とは言えないのが現状である。(校長)
- ・イギリスやオーストラリアの事例を挙げ、「校門を一步出たら親の責任」という意識改革が必要である。また、新しい活動を始めるなら既存業務を削る「スクラップ・アンド・ビルド」を学校内で徹底すべきである。(山本委員)
- ・教員が多くの時間を費やす「日記(生活ノート)」の指導について、以前勤めた学校で廃止しても問題なかったという事例を挙げ、三ヶ日中でも進められることから業務精査をしてみてもどうか。(袴田委員)

(3)「地域を好きになる中学生」育成のための具体案①

(1)と(2)の熟議が充実し、(3)を熟議する時間がなくなったため、次回(第3回)に持ち越すことを委員で確認した。

その他の報告事項等

司会の宮津教頭から、次回会議は令和8年12月9日(水)午後2時30分から会議室で開催する旨の報告があった。

併せて、次回会議の議題の一つである「総合探究発表会を終えて～今後の総合の在り方～(仮)」に向けて、11月26日(木)午前に行われる総合探究発表会を学校運営協議会委員に参観いただきたいという旨が伝えられた。